

主な内容

- 巻頭言——看護学部長就任のご挨拶
循環器医療センター長就任のご挨拶
- 新入職員研修を受けて——新入職員の声 ～研修を通じて学んだこと～
- 新任教授の紹介——11名の教授から新任のご挨拶
- フリーページ——すこやかスポット医学講座No.79
「がんの免疫療法について」
- 表紙写真：矢巾町煙山のジャーマンアイリスの里
(2017.6.6 撮影、解説はP9)



看護学部長就任のご挨拶

鳴森 好子

(共通基盤看護学講座 教授)



岩手医科大学創立 120 周年の記念事業の一環として、看護学部が設置されました。本年 4 月 1 日の開設とともに、看護学部長を拝命いたしましたことを大変に名誉なことだと思っております。力不足ではありますが、岩手医科大学の歴史と現在、未来を担う看護職育成をめざした看護学部となるよう、教職員とともに力を合わせて努めて参りますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

さて、近年、4 年制大学が看護学部を設置する動きは留まるどころがありません。平成 30 年度の設置を申請している大学は 7 校に上り、全国で 272 校となる予定です。実に全国の大学の三校に一校には看護学部ができていた時代になりました。このような時だからこそ岩手医科大学の看護学部の魅力を考えてみたいと思います。

それは、全国に医療系大学が数ある中で、医歯薬看護の 4 学部が設置され、その各学部の学生が同じキャンパスで学ぶことができるという環境に恵まれていることです。

2007 年、厚生労働省は「安心と希望の医療確保ビジョン」の報告をまとめました。ここでは、看護職はチーム医療の要だと述べられています。かつて医療は、医師が診断し、治療方針を決定し、与える薬剤の副作用や混合禁忌、医療機器などの相互作用やリハビリテーション、家族に療養の指導をする等、あらゆる場面でリーダーシップを発揮していました。ところが、医療が高度化・複雑化する一方で、一般的な医療については、学会がガイドラインを出し、クリニカルパスを運用するなど、診断と治療方針の決定以外の相対的な医行為は、医師も含めて多職種が協働して、効率的に質の高い医療を提供する時代へと

変化を遂げました。特に高齢社会に向かっている日本では、急性期の診断・治療のみならず慢性期の療養生活支援、在宅療養を支える仕組み作りなど、継続的、包括的な支援のために地域サービスとの早期の連携やチームによる医療提供体制が重要視され、診療評価体系も変わりつつあります。そのような時代の期待に応えられる看護職を育成する上で、当大学の環境は大変適しています。それぞれの専門職をめざす学生たちが同じキャンパスで、ある時は机を並べて、課外活動であるクラブ活動などにおいてもチームの一員としての協働体験が日常的に自然にできる環境だからです。

看護学部のカリキュラムも、1 年次から基礎的な科目の学修と並行して、地域看護学を学びます。病院内において安全で適切な看護を提供できるようになることは言うに及ばず、地域における病院の役割を知り、暮らしに根差した看護職の活動が可能となるような知識・技術・態度を学ぶことができるようにカリキュラムを編成しました。来るべき時代にふさわしい地域包括ケアの担い手として、看護の専門的な役割が發揮できる看護職を育成したいと考えています。このようなカリキュラムは、看護学部だけの運営では実現は難しいのです。リベラルアーツを担う教養教育部門の教育を基盤として、医学、歯学、薬学の専門分野の医療職、看護職、事務職員等、全てのスタッフが一緒に目的に向かって学ぶことができる環境をつくることで学生の力がより高められ、培われることができます。今後とも関係各位のみなさま方の多大なるご高配、ご支援をいただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

循環器医療センター長就任のご挨拶

森野 禎浩

(内科学講座循環器内科分野 教授)



本年4月1日付けで、岡林均前心臓血管外科学講座教授の後任として、岩手医科大学附属病院循環器医療センター長を拝命致しました。当センターは、小児から成人までのあらゆる循環器疾患をカバーする東日本最大級・最高水準の専門機関として、皆様と共に歩んで参りました。先達のたどってきた輝かしい歴史を継承しつつも、2年先の矢巾移転を見据え、劇的な変化と業務改善が求められています。医療の質は当然のこと、紹介の障壁を最小化する、検査結果が速やかに揃う、早期に適確な治療方針を立てる、これらを遅滞なくご報告をする、といった医療連携の基本の改善こそ急務です。

我々の圧倒的な強みはチーム医療です。1日も欠かさず毎朝行われてきた全科が集うハートチームカンファランスは、世界的に見ても希有です。ご紹介いただいた患者様の治療方針は、各科のエキスパートのディスカッションを何重にも経て決定します。現在では、経皮的動脈弁留置術（TAVI）や生体吸収性冠動脈ステントなどの超最新カテーテル治療、低侵襲心臓外科手術、超最新鋭の画像診断など、国内でも数少ない施設に成長致しました。岩手県のみならず東北全域の患者さんに、広くこの恩恵を提供すべき役割を負っております。

開設20周年にあたる本年、新しい布陣で新たなチャレンジを開始します。日本一の心臓手術症例数を誇る榊原記念病院より、本学出身の金一（きん はじめ）先生を心臓血管外科学講座教授としてお迎えし、既にレベルの高い手術をこなし、緊急手術などに高い機動力を発揮頂いております。小山耕太郎教授は小児科の主任教授に昇進され、小児循環器医療がさらに盤石になりました。不整脈アブレーション手術の進化、成人先天性心疾患担当医の配置、田代敦准教授（臨床検査医学講座に異動）の主導する超音波部門の拡充などは、地域の福音となるでしょう。ここに集うプロフェッショナルたちが、それぞれの能力を遺憾なく発揮し患者様に還元できるよう、様々な環境整備を行うことこそ循環器センター長の最大の任務と考えております。

24時間365日、皆さまに門戸を開いております。循環器内科ホットライン（019-653-2431：医療者限定）は、交換手を介さず専門医が即答する画期的な相談ダイヤルです。患者様のご紹介、判断に窮する場面はもちろんのこと、どんな些細なことでもお気軽にご活用下さい。引き続き皆様のご支援を賜れますよう、何とぞお願い申し上げます。

新入職員の声

～研修を通じて学んだこと～



4月3日から5日にかけて行われた新入職員オリエンテーションの感想をご紹介します。なお、研修の日程・内容は職種により一部異なります。



医務課 事務員
佐藤 真実

今回の研修は、職種ごとではなく新規採用となったすべての職員が対象ということで、幅広く岩手医科大学について、また病院で働くということについて学ぶことができました。最初の学長、事務局長、病院長の講話から、自分がこれからどういった組織で働いていくのか、また今後の方向性を知ることができ、働くということについて具体的なイメージをもつきっかけになりました。

最も印象に残ったのは、情報管理という部分です。病院という多くの人の個人情報を扱う場でこれから働いていくということについて、しっかりとした自覚を持っていかねばならないと実感しました。以前まで個人情報漏洩などの事件はテレビのニュースや新聞の中の話であり、そうそう起こるようなことではないと思っていました。しかし、過去の事件を見返すとほんの少しのミスで誰にでも起こりうることであると気づかされました。これから多くの患者さんと医療スタッフの個人情報を扱う職場で働いていく中で、地域の人から信用され、安心・安全の医療を提供していくためにも、情報の管理について特に気をつけていきたいと思いました。

また、医療安全や院内暴力、苦情については、事務職である自分は直接的に関わりのある部分ではないかもしれませんが、看護師や医師が働いている環境を知ることができました。

研修で学んだ多くのことを今後役に立てていきたいと思っています。



薬剤部 薬剤師
村井 誠文

新人研修では、学長をはじめとする様々な立場の方々からいろいろなお話や講義をしていただきました。研修を通して、社会人としての自覚や責任をもって業務にあたらなければならないと強く実感しました。また、患者さんの命に関わる職種なので、分からないことがあった場合は自分だけで解決するのではなく、先輩や同期に相談し解決してから行動しなければなりません。

現代の医療は、より高度化・専門化されることにより複雑化しています。患者さんに質の高い医療を提供するためには、医療に携わる多種多様な医療従事者がそれぞれの高い専門性を前提に、目的と情報を共有し、業務を分担しつつも互いに連携していくチーム医療の存在が欠かせません。グループワークでは、看護師などの他職種と共に与えられた課題に取り組み、自分の情報を相手に誤解なく正確に伝えるためには、話す・聞く・伝えるといった3つの力が大切であることを学び、うまく活用してスムーズなコミュニケーションを心がけていきたいと思っています。

岩手医科大学附属病院は、先輩職員方の努力と活躍により、120年と長きにわたり患者さんを治療し、地域医療に貢献してきました。先輩方の築き上げた伝統や信頼に傷をつけず継承できるように、岩手医科大学職員としての自覚と自分の行動に責任を持ちながら一つひとつの業務に全力で取り組んでいきたいと思っています。



中央放射線部 診療放射線技師
三浦 和真

今回の新入職員研修をうけて、自分は岩手医科大学附属病院に入職したのだという自覚と責任を大きく感じ、以前には感じる事ができなかった様々なことを感じるようになりました。

感じたことの一つは社会人と学生の違いです。今までは、学校の授業であったり、アルバイトであったりと、目的はすべて自分のためでした。しかし、社会人になると、行動の目的は自分のためだけでなく、家族や社会への奉仕と拡大していきます。自分が責任のない行動や言動をしてしまうと、その責任は自分だけでなく、会社や家族にまで広がってしまいます。自分の行動や言動がすべて周りの人から見られているのだと考え、自分ももう学生ではなく、岩手医科大学附属病院の職員のだと自覚し生活していきたいと思っています。

また、コミュニケーションの重要性というも感じたことの一つです。医療というのは連絡の不手際が患者様の命にまで関わってくるものです。医師や看護師など、様々な職業の人がいるこの職場ではコミュニケーションをとるのが難しいと考えますが、だからこそより徹底して、コミュニケーションの重要性というものを考えていかねばならないと思いました。

病院という特殊な職場で、覚えなくてはいけないことが多くありますが、この研修では学んだことを礎とし、初心を忘れずに働いていきます。



歯科衛生部 歯科衛生士
照井 香穂里

新入職員研修を受けて、社会人としての自覚とそして岩手医科大学附属病院の職員であることの自覚を持つ必要性を再確認できました。

学長、事務局長、病院長の講話を聞き、岩手医科大学や附属病院の歴史や現況を詳しく知ることができましたが、それと同時にこのような大きな組織の中で働くということの誇りや責任について考えさせられました。「誠の精神に基づく、誠の医療の実践」という附属病院の理念のもと、歯科衛生士としての自覚を持つとともに自分自身に誠実になり、医療を提供していきたいと思っています。また、医療の進歩に伴い、それに応じた対応ができるように大学病院としての教育を通じて学ぶ精神を常に持ちたいと思います。かねてより希望していた職場に就職することができて新たに責任感も芽生え、岩手医科大学附属病院のチーム医療を担う医療人として努めていきたいと思っています。

また、私は社会人2年目ですが、まだ社会人として未熟な部分は多くあると感じます。今回の新入職員研修で改めて社会人としてどうあるべきかを考えることができました。特に勉強になったこととして自立した仕事ができるための土台には、社会人としての考え方、モラルやルールの遵守、ビジネスマナーがあるということです。これらはチームで働くための基礎部分であり、その中には基本の挨拶や良好な人間関係を築くことも含まれていると思います。ただ仕事をこなすだけの人間にならず、社会人としてふさわしい大人になるため、これまでの自分自身の行動や仕事姿勢を見直したいと思っています。



救急センター 看護師
大澤 美月

新人職員研修に参加して、本学の概要や看護部の理念のほか、社会人としての心得、良好な人間関係の築き方など講話を通して学ぶことができました。社会人として働くということは、学生だった頃とは違い、3つの自立「経済的自立・自己管理・自己責任」が伴います。この3つは組織で仕事をする基礎となるため、今後、自立させていきたいと思えます。また、社会人の基礎動作の1つであるあいさつは、円滑な人間関係を築く手段です。「あ」かるく「い」つも「さ」きに「つ」づけての4つを基本に自ら発信していきたいです。

本学は120年も歴史のある医療系大学であり、現在は、矢巾への附属病院移転に向け、患者中心の医療を実践するために、「医・歯・薬・看」が連携し先進的な取り組みが期待されています。歴史ある大学の職員として就職できたことに自信と誇りを持ち、働いていきたいと思えます。また、岩手医科大学附属病院の看護職員には理念に基づき、やさしさと思いやりのある心、倫理観をもって質の高い看護を提供する使命があることを学びました。積極的に研修や勉強会、委員会に参加し、自らの看護の学びとして吸収していきたいと思えます。

この研修を通して、社会人・看護職員としてのあり方を学び、全ての患者さんに質の高い看護を提供するため、深い知識と正確な技術、経験を積んでいきたいという意識が強く芽生えました。何事にも自主的に行動し、この1年は新社会人・新人看護師として一人前になれるよう成長していきたいです。



中6階 看護師
吉田 紘基

今回、新人看護研修を受けて、改めて責任を持って働いていくのだと自覚しました。学長や病院長・事務局長などの講話で、この歴史ある病院に入職したことや病院のこれからの目指していく方向性など多くのことを聞くことができました。岩手医科大学の目的である「誠の人間の育成」のもと、どんな人間が「誠」なのか考えながら働いていきたいと感じました。そして、一番印象に残っているのは、「勉強心を忘れては、良い医療の提供はできない」という講話でした。看護師という医療職に就いたという自覚と責任を持ち、良い医療を提供できるように常に勉強していきたいです。

その他にも外部講師によるコミュニケーション研修を通して、自分の思っていることや情報を正確に伝えることがいかに難しいのかということも学びました。これからチーム医療の中で働いていくうえで大切なことを多く学び、しっかり話すということを心がけていきたいです。あいさつに関しても、新人らしく「明るく・いつも・先に・続けて」と講話の中で話されており、社会人としてしっかりとできるようにしたいと思えます。また、これから働いていく自覚を持ち、看護師として免許を持っている者として恥じないように働いていきたいと思えます。



中7階 看護師
奥村 美郷

新入職員研修を受け、社会人として、また岩手医科大学の一職員として、自覚と責任をもった職務を果たすこと、言動に注意を払うことが必要であるということも学びました。初めて研修を受けた際、自らの社会人としての意識が不足していることを実感し、自分の言動はすべて他者に見られており、その責任は自らのものとなることを学び、守られる立場ではなく、守る立場になるという意識が芽生えました。また、常に自主性をもち、感謝と心配りを忘れないこと、情報管理の徹底、コミュニケーションを大切にしていくことの必要性を学びました。特にコミュニケーションにおいては、組織で仕事を行うにあたり、仕事の質だけではなく、人間関係、心の健康にも大きな影響を及ぼすことを学び、聞く力、話す力、伝える力を養い、円滑なコミュニケーションに努めていきたいと思えます。

また、本学は非常に歴史が長く、2年後には矢巾への附属病院移転も控えており、これからも益々教育および医療は発展し続けていきます。本学の医療職員である看護師として、患者さんをはじめとした様々な個人、集団、組織、地域との関わりを意識し、常に実践や研究、教育を通して学び続ける姿勢を大切にし、人としての教養を高めながら、十分な知識と技術の習得を目指し、本学及び看護の発展に寄与したいと強く感じました。研修で学び、感じた気持ちを大切に、日々努力し、学ぶ姿勢で職務にあたりたいと思えます。



西6B 看護師
千葉 優里

今回、新入職員研修を受けて、大学の歴史や移転に向けての方向性、大学の規則など多くのことを学ぶことができました。

岩手医科大学附属病院は特定機能病院であり、質の高い医療・看護を求められています。多くの患者さんが来院するため、自分も岩手医科大学の一員であることを自覚し、言動に注意していきたいと思えました。

講義の中で、あいさつは「円滑な人間関係を築く潤滑油」と学び、自分もあいさつが相手によく伝わるよう、笑顔で明るいあいさつを心がけたいと思えます。大学では、多くのマニュアルや規則があります。自分も大学の一員になったからには、守る責任があります。そして、規則を守ることは大学への貢献につながるだけでなく、予期せぬ事態が起きた際に自分を守る証明になります。

大学は今、世界からも注目され、矢巾への附属病院移転に向け大きく動き出しています。その大学の一員であることを誇りに感じ、早く大学に貢献できるよう日々努めていきたいと思っています。そして、看護部の理念である「やさしさと思いやりの心・倫理観」をもった看護師になりたいと思えます。

今回の研修では、多くの先生方に講義していただき感謝致します。

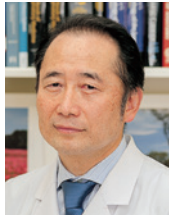
新任教授の紹介

平成 29 年 4 月 1 日就任

内科学講座 呼吸器・アレルギー・膠原病内科分野

前門戸 任 (まえもんど まこと)

昭和 40 年 3 月 16 日生
青森県青森市出身



研究テーマ

- 胸部悪性腫瘍の診断と治療、ドライバー遺伝子変異と分子標的薬

主な著書論文

- EGFR遺伝子変異非小細胞肺癌に対するゲフィチニブと化学療法の比較 (N Engl J Med 2010 Jun 24; 362(25): 2380-8)
- EGFR遺伝子変異非小細胞肺癌患者に対するエルロチニブ単剤とエルロチニブとベバシズマブの比較第II相試験 (JO25567) (Lancet Oncol. 2014 Oct; 15(11): 1236-44.)
- ALK陽性非小細胞肺癌に対するアレクチニブを用いた第I/II相試験の3年フォローアップ成績 (AF-001JP) (J Clin Oncol. 2017 Mar 15; JCO)

趣味

映画鑑賞

教職員への自己PR

自治医大を卒業し青森県で地域医療に従事した後に東北大学で呼吸器内科、特に肺癌を中心に臨床、研究を行い、前任地宮城県立がんセンターでは、最先端の肺癌治療を行いつつ臨床研究を進展させていきました。呼吸器・アレルギー・膠原病内科は広い領域の診療をカバーしていますが、その領域を維持し、さらに深めて行ければと考えています。ご支援よろしく申し上げます。

経歴

平成元年 自治医科大学医学部卒業
平成 10 年 東北大学大学院医学系研究科入学
平成 14 年 3 月 同大学院修了
平成 14 年 4 月 東北大学病院 遺伝子・呼吸器内科 医員
平成 14 年 7 月 同 助教
平成 18 年 2 月 同 講師
平成 18 年 4 月 宮城県立がんセンター 呼吸器科 主任医長
平成 21 年 同 呼吸器内科 医療部長
平成 23 年 東北大学大学院医学系研究科連携講座 呼吸器科腫瘍学分野客員教授を併任
平成 29 年 4 月 現職

平成 29 年 4 月 1 日就任

小児科学講座

小山 耕太郎 (おやま こうたろう)

昭和 30 年 6 月 24 日生
宮城県気仙沼市出身



研究テーマ

- 小児科学、小児循環器学、超音波医学

主な著書論文

- 先天性心疾患 (共著) (メジカルビュー, 2014年)
- 心エコーハンドブック・先天性心疾患 (共著) (金芳堂, 2013年)
- 早産児の心室中隔収縮期ストレインの生後72時間における変化 (J Echocardiogr 2015; 13: 90-99)

趣味

バーベキュー、マウンテンバイク、読書

教職員への自己PR

少子・人口減少社会における小児医療には、道州制を先取りした広域医療圏での高次医療の集約化と、在宅医療をはじめとするいわゆる地域包括ケアシステムの展開とが同時に求められます。そこで鍵になるのはチーム医療です。120年の歴史を有する本学は、多職種協働においても国内で突出しており、矢巾の新病院を中心に、子どもの健康を生涯にわたって支える新しい医療体制を構築することができると思います。一層のご支援をお願いいたします。

経歴

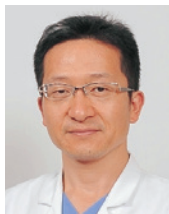
昭和 55 年 岩手医科大学医学部卒業
昭和 56 年 東北大学医学部小児科
昭和 59 年 岩手医科大学大学院医学研究科修士
昭和 61 年 東京女子医科大学附属日本心臓血管研究所循環器小児科
平成 1 年 米国 UCLA Harbor 医療センター Cardiovascular Research Fellow
平成 7 年 岩手医科大学医学部小児科学講座 講師
平成 9 年 岩手医科大学附属循環器医療センター配置
平成 14 年 岩手医科大学医学部小児科学講座 准教授
平成 19 年 同 特任教授
平成 26 年 同 講座内教授
平成 29 年 4 月 現職

平成 29 年 4 月 1 日就任

心臓血管外科学講座

金 一 (きん はじめ)

昭和 44 年 10 月 20 日生
群馬県太田市出身



研究テーマ

- 成人心臓血管外科治療、低侵襲外科心臓手術、心筋虚血再灌流障害

主な著書論文

- 内科医に必要な心臓外科手術の知識 (Heart view 19:10; 2015 p.36-42)
- 最新冠動脈疾患学 (下) - 冠動脈疾患の最新治療戦略 - (日本臨床: 2016 p.177-182)
- 人工弁感染性心内膜炎の手術成績とその特徴 (胸部外科 2015; 68: 913-7)

趣味

ゴルフ (最近してません)

教職員への自己PR

東北地方における有数の手術実績を誇る岩手医科大学心臓血管外科の責任者となり非常に身の引き締まる思いしております。大学院の役割は治療を行う診療分野、次世代の医師を育てる医学教育分野、そして、解明されていない病気の発見や新たな治療、手術法を開発していく研究分野です。平成 7 年岩手医科大学を卒業後、川副浩平、岡林均、高梨秀一郎という日本における一流の心臓外科医の下、心臓外科手術や外科医師としての姿勢など多くの経験を積ませていただきました。これまでの経験を生かしながら、今後も研鑽を積み岩手県民そして東北地方の循環器外科治療の向上のため微力ながら努力していきたいと考えています。

経歴

平成 7 年 岩手医科大学医学部卒業、第三外科学講座
平成 14 年 米国エモリー大学留学
平成 17 年 岩手医科大学心臓血管外科学講座 助手
平成 19 年 小倉記念病院 心臓血管外科
平成 22 年 同 講師
平成 26 年 榊原記念病院 心臓血管外科 医長
平成 29 年 同 部長
平成 29 年 4 月 現職

平成 29 年 4 月 1 日就任

皮膚科学講座

天野 博雄 (あまの ひろお)

昭和 43 年 10 月 31 日生
東京都杉並区出身



研究テーマ

- ・アトピー性皮膚炎、皮膚免疫・アレルギー、褥瘡

主な著書論文

- ・マラリア感染はアトピー性皮膚炎症状を改善させる (Allergy 2014; 69: 1412-1419.)
- ・精神的ストレスはアトピー性皮膚炎様症状を惹起する -corticosteroid releasing factor の抑制効果について (Neuropsychopharmacology 2008; 33: 566-573.)
- ・拘束水浸ストレスによるラット気道粘膜の反応について (Journal of Allergy and Clinical Immunology 2005; 116: 318-324.)
- ・小児皮膚筋炎皮膚病変に対する免疫グロブリン大量療法の効果について (British Journal of Dermatology 2007; 156: 1390-1391.)

趣味

スポーツ観戦、硬式テニス、弓道、ハンドボール

教職員への自己PR

これまで群馬大学医学部皮膚科学教室で診療、教育、研究の研鑽を積んで参りました。皮膚は外界と直に接する境界臓器であり、病変が目に見えることもあり、ほぼ全ての診療科との接点があります。皆様のお役に立てるよう努力したいと思います。これまで培ってきた診療、教育、研究の経験を下に、岩手医科大学の発展のために力を尽くす所存です。ご指導ご鞭撻のほど何卒宜しくお願い申し上げます。

経歴

平成 5 年	群馬大学医学部卒業
平成 5 年	同 附属病院研修医 (皮膚科学)
平成 6 年	同 大学院博士課程入学
平成 10 年	同 大学院博士課程修了
平成 10 年	同 皮膚科学教室助手
平成 10 年	カナダ・マックマスター大学病理学教室 postdoctoral fellow
平成 12 年	群馬大学医学部皮膚科学教室助手
平成 20 年	群馬大学大学院医学系研究科皮膚科学講師
平成 29 年 4 月	現職

平成 29 年 4 月 1 日就任

救急・災害・総合医学講座 総合診療医学分野

下沖 収 (しもおき おさむ)

昭和 38 年 10 月 2 日生
岩手県九戸村出身



研究テーマ

- ・総合診療医学、地域医療学、一般外科学、がん診療学、感染管理

主な著書論文

- ・腸管出血性大腸菌O157学童集団感染における血清抗LPS抗体産生についての検討 (感染症学雑誌, 2006; 80: 84-90.)
- ・OK-432刺激によるヒト末梢血単核球におけるIL-18産生誘導に関する検討 (Biotherapy, 1999; 13: 115-118.)
- ・【東日本大震災津波における岩手県立病院の対応】 東日本大震災時の久慈病院の状況と対応 (岩手県立病院医学会雑誌, 2012; 51: 83-85.)

趣味

散歩、スキー、音楽鑑賞、リコーダー

教職員への自己PR

2017年4月に新設されました医学部救急・災害・総合医学講座 総合診療医学分野を担当させていただくことになりました。私はこれまで、岩手県において外科を中心とした地域医療に従事して参りました。近年、医療ニーズの変化、社会保障費の増大、医療資源の地域偏在などが大きな問題となる中、全人的・包括的対応ができる総合診療医への期待が高まっております。誠の人間たる総合診療医の育成を目指し、また診療・研究・教育各方面において本学の発展に貢献できる教室となるよう努力して参りたいと思います。皆様方のご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

経歴

昭和 63 年	自治医科大学医学部卒業
	岩手県立中央病院研修医
平成 2 年	岩手県立釜石病院 外科
平成 4 年	岩手県立住田病院 外科
平成 6 年	陸前高田市国保広田診療所 所長
平成 9 年	岩手医科大学第一外科・細菌学講座 研究生
平成 11 年	岩手県立久慈病院 外科
平成 21 年	同 副院長
平成 27 年	岩手県立千厩病院 院長
平成 29 年 4 月	現職

平成 29 年 4 月 1 日就任

リハビリテーション医学科

西村 行秀 (にしむら ゆきひで)

昭和 46 年 8 月 29 日生
大阪府生まれ、滋賀県出身



研究テーマ

- ・リハビリテーション医学、運動生理学、障害者スポーツ

主な著書論文

- ・肩の解剖と機能、肘の解剖と機能 (イラストと写真でわかる実践装具療法. 金芳堂: 2015: 14-21)
- ・脊髄損傷における肩のトラブル (Journal of CLINICAL REHABILITATION. 2014; 23 (10): 967-972.)
- ・腕神経叢損傷患者の肋間神経移行術後における循環応答を用いた求心路の再生の有無に関する検討 (J Neurotrauma. 2011; 28: 1289-1294.)

趣味

釣り、アウトドア

教職員への自己PR

新たに設置されたリハビリテーション医学科に着任致しました。リハは多くの診療科が治療の目的とする臓器や器官がなく、その目的とするものは機能、障害と活動です。従ってすべての臓器を専門とする診療科と併用できます。リハの身体への効果は近年いろいろとわかってきています。今後ますます発展していく領域といえます。伝統ある本学および岩手県のために努力いたしますのでご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。

経歴

平成 8 年	浜松医科大学医学部医学科卒業、浜松医科大学整形外科教室入局
平成 11 年	浜松医科大学整形外科 医員
平成 14 年	富士宮市立病院 医長
平成 18 年	静岡市立静岡病院 医長
平成 19 年	浜松医科大学整形外科教室 助教
平成 22 年	和歌山県立医科大学リハビリテーション医学講座 助教
平成 24 年	同 講師
平成 27 年	和歌山県立医科大学リハビリテーション部 次長
平成 28 年	和歌山県立医科大学みらい医療推進センターげんき開発研究所 所長
平成 29 年 4 月	現職

平成29年4月1日就任

薬学教育学科

奈良場 博昭 (ならば ひろあき)

昭和42年11月15日生
埼玉県入間市出身



研究テーマ

・炎症性疾患の病態解析

主な著書論文

- ・マウス顆粒膜細胞における誘導型PGE合成酵素の発現に及ぼすプロゲステロンのフィードバック機構 (Prostaglandins Other Lipid Mediator, 2016 123: 56-62.)
- ・放射薬品学 (南江堂、2015)
- ・プロスタグランジンE合成酵素の転写調節機構 (J Biol Chem., 2002; 277: 28601-28608)

趣味

ジョギング、スキー、登山

教職員への自己PR

脂質性メディエーターが関わる炎症性疾患の病態解析を行ってきました。最近、特に細胞が分泌するエクソソームと慢性炎症の研究を行っています。本学薬学部では開設準備段階から関わらせていただいております。この度は、薬学教育学科の担当を拝命いたしました。今後、学生の学力向上に関わる取り組みや職種間連携教育に携わりたいと考えております。ご指導、ご鞭撻のほど、宜しくお願い申し上げます。

経歴

- 平成3年 北里大学薬学部卒業、薬剤師
- 平成8年 北里大学大学院薬学研究科博士課程修了
- 平成8年 ヒューマンサイエンス振興財団研究員 (国立予防衛生研究所)
- 平成9年 北里大学薬学部 助手
- 平成13年 国立循環器病センター研究所 薬理部
- 平成15年 聖マリアンナ医科大学医学部 非常勤講師
- 平成16年 国立循環器病センター研究所 疫学部 室長
- 平成17年 岩手医科大学 共同研究部門 薬学研究センター 助教授
- 平成19年 岩手医科大学薬学部 准教授
- 平成29年4月 現職

平成29年4月1日就任

共通基盤看護学講座

三浦 まゆみ (みうら まゆみ)

昭和28年1月24日生
岩手県盛岡市出身



研究テーマ

・基礎看護学、家族看護、災害看護教育

主な著書論文

- ・訪問看護ステーション未設置のA保健所管轄地域住民が捉える在宅サービス (岩手県立大学看護学部紀要19, 37-48, 2017)
- ・基礎看護学教育に携わる看護教員と介護教員の家族・家族ケアに関する認識 (岩手県立大学看護学部紀要12, 1-16, 2010)
- ・アジア圏の看護大学における災害看護教育の現状 (日本災害看護学会誌10(3), 28-35, 2009)

趣味

歩くこと、推理小説を読むこと

教職員への自己PR

私は現場経験が多くありません。それ故、現場で働く方々の日々の看護実践にハッとさせられることがたびたびあり、なのに当たり前のこととして通り過ぎてしまっているもったいなさを強く感じ、それを明確化したい…、それが私の研究の出発点になっています。この4月から本学看護学部の教員になりましたことを大変光栄に思っております。さらなる発展を目指して基礎看護学の教育・研究活動に努力してまいりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。

経歴

- 昭和50年 聖路加看護大学卒業
- 昭和50年 聖路加国際病院 看護師
- 昭和52年 中江病院 (仙台市内) 看護師
- 昭和55年 川久保病院 (盛岡市内) 看護師、岩手看護専門学校 専任教員
- 昭和56年 岩手県岩手保健所 保健師
- 昭和57年 岩手県医務課看護係 技師
- 昭和58年 岩手県立衛生学院看護学科 看護教員
- 平成3年 同 主任看護教員
- 平成9年 岩手県総務部県立大学整備室 主査
- 平成10年 岩手県立大学看護学部基礎看護学講座 講師
- 平成11年 岩手大学大学院人文社会科学研究科修士課程修了
- 平成15年 岩手県立大学看護学部基礎看護学講座 助教授
- 平成19年 同大学地域看護学講座 教授
- 平成29年4月 現職

平成29年4月1日就任

成育看護学講座

蛸崎 奈津子 (かきざき なつこ)

昭和46年6月27日生
石川県加賀市出身



研究テーマ

・母性看護学、助産学、国際看護学

主な著書論文

- ・看護学テキスト 統合と実践－看護倫理 (共著/担当: 第2章「母性看護」) (学研メディカル秀潤社、2014年)
- ・助産師が行う 災害時支援マニュアル (共著/担当: 第3章「日本助産師会災害支援ネットワーク体制」、第4章「災害ボランティア助産師の役割と心得」) (日本助産師出版、2012年)
- ・国際結婚した中国人女性と日本人男性の関係構築にむけた知恵に根ざした諸行動－妊娠・出産・育児期に焦点をあてて－ (日本看護研究学会雑誌33巻5号、P15-24、2011年)

趣味

スポーツ観戦、パレーボール

教職員への自己PR

このたび、看護学部成育看護学講座教授に拝命いただきました。岩手県内で長らく看護教育に携わって参りましたが、今後とも先生方のご教示を賜りながら実践力のある質の高い助産師・看護師の育成に努めて参りたいと思っております。また、主に在日外国人妊産婦の支援に関する研究を行っております。本県は国際リニアコライダーの建設候補地に選定されたこともあり、多文化共生に向けた検討が急務となります。その一役を担えるよう努力を続けたいと存じます。皆様方のご指導、ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

経歴

- 平成6年 弘前大学教育学部特別教科 (看護) 教員養成課程卒業
- 平成7年 金沢大学医療短期大学部専攻科助産学特別専攻修了
- 平成10年 順天堂大学医学部附属順天堂医院 助産師
- 平成11年 西島産婦人科医院 (盛岡市) 助産師
- 平成16年 岩手県立大学看護学部 助手
- 平成19年 岩手県立大学大学院総合政策研究科博士前期課程修了
- 平成22年 岩手県立大学看護学部 講師
- 平成25年 弘前大学大学院保健学研究科博士後期課程修了
- 平成29年4月 岩手県立大学看護学部 准教授 現職

平成 29 年 4 月 1 日就任

看護専門基礎講座

遠藤 龍人 (えんどう りゅうじん)

昭和 39 年 2 月 9 日生

秋田県小坂町生まれ、岩手県盛岡市出身



研究テーマ

・ 消化器・肝臓病学、栄養代謝、チーム医療

主な著書論文

- ・ 急性肝不全患者における血清IV型コラーゲンおよびその分解系の経時的変動 (J Iwate med Ass, 1999; 5(4): 371-379)
- ・ 急性肝炎の劇症化予知と患者搬送システムに関する多施設共同研究 (日腹救誌, 2009; 29(4): 591-596)
- ・ 肝発癌抑制を視野に入れた肝硬変の栄養ガイドライン (Hepatol Res, 2012; 42(7): 621-626)

趣味

古寺巡礼、古書店巡り

教職員への自己PR

本学医学部内科学第一講座に入局以来、内科学、消化器内科学の教育、研究、診療の研鑽を積むとともに、NSTの一員としてチーム医療に携わって参りました。近年の医療現場では、専門性を活かしながら多職種協働の医療の中で患者さんやご家族の意思決定を支えることが求められており、看護職が果たす役割が大きくなってきています。関連各科・部署とはこれまで以上に広く連携しながら、将来の優れた看護専門職を育成できるよう、教育と研究に努めて参りたいと思いますので、教職員の皆様方のお力添えならびにご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

経歴

- 平成元年 山形大学医学部卒業、岩手県立中央病院 臨床研修医
- 平成3年 本学内科学第一講座に入局
- 平成11年 同講座助手
- 平成17年 京都大学探索医療センター 開発部 HGF 肝再生プロジェクト 共同研究員
- 平成18年 同大学大学院社会健康医学系専攻専門職学位課程修了
- 平成19年 本学内科学第一講座 講師、栄養サポートチーム 室長
- 平成27年 本学内科学講座 消化器内科肝臓分野 准教授
- 平成29年4月 現職

平成 29 年 5 月 1 日就任

医療工学講座

武本 真治 (たけもと しんじ)

昭和 49 年 8 月 25 日生

岡山県倉敷市出身



研究テーマ

- ・ 口腔内での歯科用材料の界面反応解析
- ・ 高耐食性チタン合金の開発

主な著書論文

- ・ チタンクロム合金のフッ化物溶液中での耐食性機構 (Dent Mater 2009; 25: 467-472)
- ・ オールセラミック修復物の光学特性に及ぼすカラージルコニアの影響 (Dent Mater J 2015; 34: 918-924)
- ・ 疑似口腔環境下でのチタンの耐食性に及ぼす硫化物濃度の影響 (Mater Sci Eng C 2016; 62: 268-273)

趣味

スポーツ観戦、ソフトテニス

教職員への自己PR

医療工学講座では歯学部歯科理工学を担当しています。めまぐるしく新しい材料や器材が開発されていますが、材料の持つ普遍的な性質を理解し、自分で考えられる歯科医師の育成に努力したいと思います。医歯薬看護と医療系学部が集結しているこの岩手医科大学で、これからのチーム医療を支える根底の形成を教職員の皆様とともに連携して進めていきたいです。

岩手医科大学の教職員の一員になれたことを誇りに思うとともに、今後の岩手医科大学の発展のために学生教育および研究に取り組んで参りたいと思います。教職員の皆様のご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

経歴

- 平成9年3月 岡山大学工学部卒業
- 平成11年3月 岡山大学大学院工学研究科修了
- 平成14年3月 岡山大学大学院自然科学研究科修了
- 平成14年4月 物質・材料研究機構 生体材料研究センター 特別研究員
- 平成15年4月 東京歯科大学歯科理工学講座 助手
- 平成20年4月 同 講師
- 平成29年2月 同 准教授
- 平成29年3月 岩手医科大学医療工学講座 特任教授
- 平成29年5月 現職

理事会報告 (4月定例—4月24日開催)

1. 教員の人事について

統合基礎講座医療工学講座 教授
武本 真治 (前 同講座 特任教授)
(発令年月日 平成29年5月1日)

2. 病院部門システム仮想化基盤の導入について

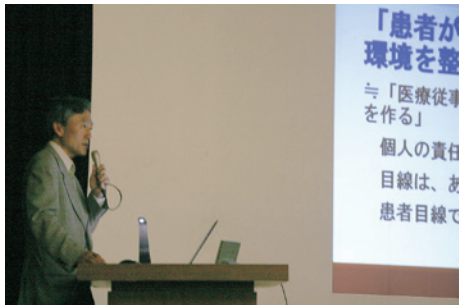
3. 電子カルテ部門システム放射線システムの早期更新計画について

表紙写真の解説

ジャーマンアイリスは「虹の花 (レインボーフラワー)」といわれ、白や赤、黄、紫、ピンクなど色鮮やかな花を咲かせます。開花期は5月から6月。今回撮影した矢巾町煙山の「ジャーマンアイリスの里」は、20アールの畑に約1万5千株が植えられ見頃を迎えていました。5月27日から6月11日までジャーマンアイリス祭(無料公開)が開催され、株を買い求める人や見学者で賑わっていました。



総合安全対策講習会ならびに 医療安全表彰が行われました



平成29年度総合安全対策講習会が、5月9日(火)から12回(録画映像による開催含む)にわたり歯学部4階講堂で行われ、病院職員約2,200名が参加しました。講演会では、黒坂医療安全管理部長(写真)ほか3名の講師から、院内における総合的な医療安全対策について講演が行われました。

また、本開催に先立ち、平成28年度医療安全表彰者(部署)として2名と1部署に、院内感染対策功労部署として2部署に対し、黒坂医療安全管理部長から表彰状が授与されました。



＜平成28年度 医療安全表彰者(部署)＞

(写真左から)

- 放射線医学講座 中山 学 助教
- 救急・災害・総合医学講座 救急医学分野 照井 克俊 講師
- 高度救命救急センター(代表:高橋 弘江 看護師長)



＜平成28年度 院内感染対策功労部署＞

(写真左から)

- 歯科医療センター感染対策推進委員会
(代表:口腔医学講座 予防歯科学分野 岸 光男 教授)
- リハビリテーション部(代表:佐藤 丈才 士長)

附属病院外来コンサートが行 われました

5月27日(土)、附属病院外来1階待合ロビーにおいて、岩手県民オーケストラによるコンサートが開催され、入院患者さんやご家族、教職員ら約100名が迫力ある演奏を楽しみました。

このコンサートは、入院中の患者さんへの励ましと癒しを提供することを目的として、年2回開催されています。約40名の楽団は、「スター・ウォーズ」「南部外山節」など7曲を演奏したのち、アンコールにも応えるなど心のこもった演奏を披露しました。

また、今回は県内出身のソプラノ歌手 高橋亜矢子さんが出演し、「オンブラ・マイ・フ(懐かしき木陰よ)」「花は咲く」の2曲を、オーケストラの演奏をバックに素敵な歌声を披露しました。



高度看護研修センター認定看護師 教育課程開講式が行われました

6月1日(木)、創立60周年記念館10階会議室において、緩和ケア認定看護師教育課程の開講式が行われました。

式では、寺山センター長から「1日でも早く現場で力を発揮し、患者さんに希望を与える存在になってほしい」と式辞が述べられ、続いて杉山病院長から「知らないと技がうまれない。一生懸命学んでもらいたい」と挨拶がありました。

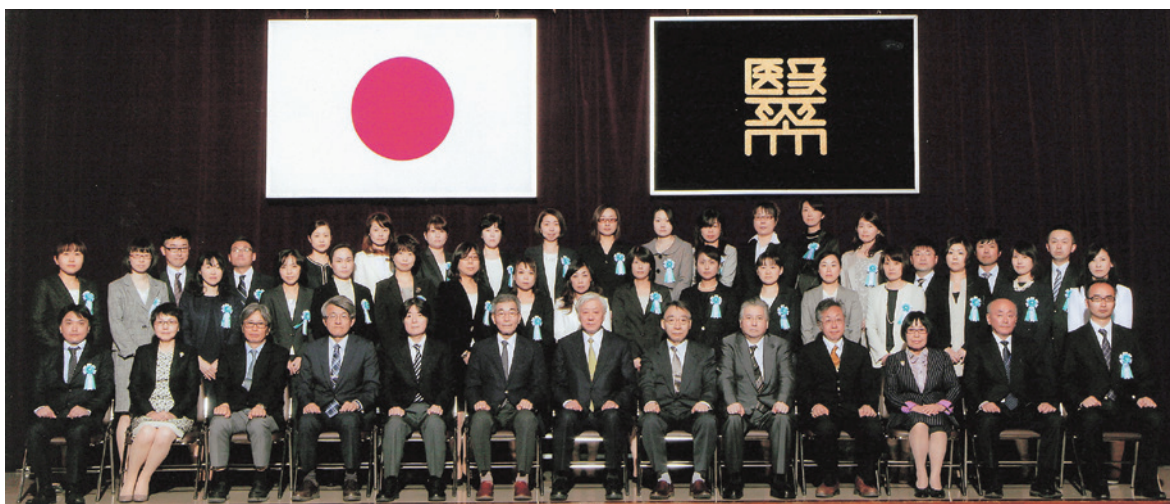
研修生代表挨拶では、第6期生となる今年度の研修生12名を代表し、北海道の函館協会病院の平野美穂さんが「緩和ケアに貢献できるスペシャリストを目指します」と決意を述べました。



永年勤続者表彰式が行われました

5月16日（火）、歯学部4階講堂にて、平成29年度の永年勤続者表彰式が行われました。本年度の表彰者は、勤続30年の方が15名（写真上段）、勤続20年の方が74名（写真中段・下段）でした。

式典では、小川理事長より勤続30年代表の放射線医学講座 吉岡邦浩 特任教授と勤続20年代表の西3階 岩泉康子 看護師長へ表彰状と記念品が授与され、式辞が述べられました。これを受けて中9階 高島みゆき 看護師長（勤続30年）が謝辞を述べ、式典終了後に壇上にて記念撮影を行いました。その後、創立60周年記念館8階に会場を移して祝賀パーティーが催され、勤続のお祝いをするとともに今後益々のご活躍を祈念し、盛会裡のうちに終了となりました。



学校法人岩手医科大学

平成29年度予算

1. 予算編成にあたって

平成29年度予算は、矢巾新附属病院新築工事をはじめとする総合移転整備事業の推進や電子カルテシステムの更新、部門システムの整備などが計画されています。

また、創立120周年記念事業は、矢巾新附属病院新築工事などの実施に向けた事業資金の確保が最重要課題となっています。一方で、診療報酬の改定や消費税増税などの社会環境が本学の経営に大きな影響を及ぼすことが予想され、病院建設に向けた資金積立計画の見直しなども検討しなければならぬ状況となっています。

この様な厳しい環境下において、大学経営の安定維持には入学定員充足が不可欠であり、各学部の特性を活かして入学生を確保していかなければなりません。また、本学

の事業活動収入は約68.9%を医療収入が占めていることから、一層の患者確保に努め、医療収入の増収対策を推進し財政を安定させることにより、多額の資金を要する総合移転整備事業の事業資金計画に基づいた資金の確保に努めなければなりません。

これらのことから、平成29年度予算は、矢巾新附属病院新築工事費などの確保のため、収入については、医療収入などの増収に努め、補助金や研究費などの外部資金の積極的な獲得をも図るものとし、支出については教育・研究・医療活動を円滑に遂行できるよう配慮のうえ可能な限り圧縮したものとしました。

2. 主な予算項目

平成29年度事業活動収支予算の主な項目について説明します。

収入予算は、学生生徒等納付金87億1,547万円（事業活動収入に占める割合16.2%）、医療収入371億2,535万円（同68.9%）、補助金36億9,890万円（同6.9%）を計上しました。これら3項目で事業活動収入の92.0%を占めています。その他の収入は43億4,978万円（同8.0%）を計上し、事業活動収入予算総額は538億8,950万円を計上しました。

支出予算では、人件費219億4,462万円（事業活動支出に占める割合43.1%）、医療経費（医薬品費、医療材料費、給食材料費）155億5,223万円（同30.5%）、その他の諸経費など134億9,265万円（同26.4%）を計上し、事業活動支出予算総額は509億8,950万円を計上しました。

以上に加えて、予備費2億円の支出と基本金△50億円の組入を計上したことにより、平成29年度は△23億円の支出超過（赤字）を計上した予算編成となりました。

本学の財政は、事業活動収入の約68.9%を医療収入に委ねており、支出においては、人件費と医療経費で約73.6%を占めています。財政基盤の確立には引続き医療収入の増収と医療経費の適正・効率化を念頭に入れ、教職員一人ひとりが経費全般の節減に努めていかなければなりません。

1. 学生生徒等納付金

学生生徒等納付金は、授業料、入学金、実験実習費、教育充実費、施設整備費からなっており、医学部47億7,127万円、歯学部17億823万円、薬学部17億5,853万円、看護学部1億5,350万円、医療専門学校1億1,705万円、岩手看護短期大学2億689万円、合計87億1,547万円を計上しました。

2. 医療収入

附属病院(医科)、歯科医療センター、循環器医療センター、花巻温泉病院、PET・リニアック先端医療センターを合計した医療収入予算は、入院収入256億7,724万円、外来収入111億5,527万円、その他の医療収入2億9,284万円、合計371億2,535万円を計上しました。

3. 補助金

教育活動収入として、私立大学等経常費補助金20億6,419万円、その他の国庫補助金5億5,464万円、また、地方公共団体補助金は9億6,220万円を計上し、合計35億8,103万円を計上しました。

この他、特別収入として、施設設備補助金1億1,787万円を計上しました。

4. 人件費

給与・諸手当・所定福利費などの人件費は、社会情勢を考慮し定期昇給分1.85%を見込んで206億37万円、また、退職金関係では12億8,533万円を計上して、その他を合わせ人件費は合計219億4,462万円を計上しました。

5. 医療経費

附属病院全体の医療経費として、医薬品費86億8,574万円（医療経費率23.4%）、医療材料費66億646万円（同17.8%）、給食材料費2億6,003万円（同0.7%）を計上し、医療経費は合計155億5,223万円（同41.9%）を計上しました。

6. 研究費

医学部・歯学部・薬学部の講座研究費は、講座等の組織改編に伴い基本額を調整し配分額の変更を行いました。また、新たに看護学部の講座研究費を計上しました。教養教育センターの講座研究費及び個人研究費にあたる特別研究費は、前年度と同額を計上しました。

施設関係等の予算は次のとおりです。

7. 施設関係

建物・建物付属設備等は、図書館冷凍機工事1,300万円、循環器医療センター中央監視室装置更新工事2,300万円、その他工事3億円、合計3億3,600万円を計上しました。建物仮勘定は、病院移転整備事業として、附属病院移転建設工事143億5,345万円、設計監理等2億3,767万円、合計145億9,112万円を計上しました。

8. 設備関係

機器備品などの購入予算として、26億3,700万円を計上しました。

平成29年度 事業活動収支予算書

（単位：千円）

区分	収入の部		支出の部	
	科目	金額	科目	金額
教育活動収支	学生生徒等納付金	8,715,470	人件費	21,944,620
	手数料	254,390	医療経費	15,552,230
	医療収入	37,125,350	消耗品費	839,800
	寄付金	1,208,000	光熱水費	1,113,250
	経常費等補助金	3,581,030	旅費	240,360
	付随事業収入	1,574,680	修繕費	528,400
	雑収入	957,500	業務委託費	3,781,720
		減価償却額	3,546,390	
		その他の諸経費等	2,458,390	
	教育活動収入計	53,416,420	教育活動支出計	50,005,160
教育活動外収支	受取利息配当金	14,210		
	教育活動外収入計	14,210	教育活動外支出計	0
特別収支	その他の特別収入	458,870	資産処分差額	167,340
			その他の特別支出	817,000
	特別収入計	458,870	特別支出計	984,340
	事業活動収入合計	53,889,500	事業活動支出合計	50,989,500
	予備費		200,000	
	基本金組入前当年度収支差額		2,700,000	
	基本金組入額合計		△5,000,000	
	当年度収支差額		△2,300,000	

平成29年度 資金収支予算書

（単位：千円）

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金収入	8,715,470	人件費支出	22,149,430
手数料収入	254,390	諸経費支出	24,496,680
医療収入	37,125,350	施設関係支出	14,927,120
寄付金収入	1,508,000	設備関係支出	2,663,160
補助金収入	3,698,900	資産運用支出	4,503,000
付随事業収入	1,574,680	その他の支出	6,797,210
受取利息・配当金収入	14,210	予備費	500,000
雑収入	957,500	資金支出調整勘定	△5,783,300
前受金収入	1,422,990	次年度繰越支払資金	19,799,030
その他の収入	24,226,050		
資金収入調整勘定	△9,445,210		
前年度繰越支払資金	20,000,000		
収入の部合計	90,052,330	支出の部合計	90,052,330

※詳細な説明・確認等を希望される方は、財務部経理課（内線：3214・3215）まで照会願います。

interview 挑む人。

佐藤 聖梨奈さん

薬学部3年

～ 岩手復興ドラマ「日本一ちいさな本屋」に出演～



写真中央が佐藤さん（共演者と撮影）



3月末に岩手めんこいテレビとBSフジで放送された岩手復興ドラマ「日本一ちいさな本屋」に、薬学部3年生（当時2年生）の佐藤聖梨奈さんが橋本美佳役で出演しました。このドラマは、東日本大震災の記憶を手作り絵本で後世に語り継いでいこうとする、大船渡市の家族の実話に基づいています。

東日本大震災からの復興の歩みを後世に伝えるために、原作・出演者を岩手県が公募し、オール岩手のスタッフで制作されました（BSフジHPより）。陸前高田市出身の俳優・村上弘明さんや、女優の藤田弓子さんも特別出演され、佐藤さんと共演しました。

— 出演のきっかけ

テレビのCMで「東日本大震災復興動画制作プロジェクト」のキャストオーディションを知りました。小学1年生から高校まで様々な舞台で演劇活動をしてきて、演じることが好きだった事が応募のきっかけになりました。また、震災後、被災地や被災者に対して何一つ力になれないまま6年間を過ごしてきましたが、CMを見て、これなら私も復興に携わることができると思いました。

— 配役が決まった時の気持ち

200名を超える応募者の中から数少ない配役の一つを頂いたので、とても嬉しかったです。後で監督から伺ったところによると、オーディションの時から私のぶっ飛んだ雰囲気を感じ取っていたらしく、頂いた橋本美佳役の天然なイメージに適役ということで抜擢して下さいました（笑）。

— ストーリーから感じたこと、視聴者に伝えたいこと

絵本で震災の記憶を残すことは、当時を知らない将来の子供たちにも分かりやすく伝えられるため、この復興のカタチに感銘を受けました。大切な人や場所を奪われた方々の心の傷は癒えることはないと思いますが、このドラマで少しでも前向きな気持ちになって頂けると嬉しいです。また、震災を直接経験しなかった方々にも、震災やその後の復興の歩みを知ってもらえるドラマです。公式ホームページ（QRコード参照）やYouTubeにて動画（約30分）を配信しています。松本哲也さんが歌う主題歌「センチュリー」もオススメです。



クランクアップ後に村上さんと藤田さんを囲んで（舞台となった大船渡の民家にて。2列目右から二人目が佐藤さん）



ドラマの基になった手作り絵本

—思い出に残っていること

私は、舞台に立った経験は沢山ありましたが、ドラマは今回が初めての挑戦でした。オーバーな表現力が求められる舞台と違い、ドラマではナチュラルな演技が求められたので、12年間培ってきた舞台用の演技が全く通用しませんでした。監督にも、沢山演技指導をしていただき、最終的には演技を抑えることができたとは思いますが、今度はキャラを抜きすぎて、棒読みっぽくなってしまったのが心残りです。

役名がついていた方々は私以外全員プロでしたので、プレッシャーと焦りも感じました。間近でプロの演技を拝見でき、俳優さん方をより尊敬するようになりました。もし、今後もこのようなドラマに出演する機会があった時のために、俳優さん方の演技を研究して、次こそはナチュラルで上手な演技ができるようになりたいです。

—撮影の裏話

①「日本一ちいさな本屋」の最初は三陸鉄道に乗ってくるシーンで、電車を貸し切ったの撮影でした。1発勝負だったので、NGは絶対に許されない、緊張感が漂う状況でした。初めて三陸鉄道に乗れて、普段と違う新鮮な景色を味わえました。

②大女優の藤田弓子さんはこれまでに殆どの都道府県の方言を演じてきましたが、今回初めて岩手弁に挑戦したそうです。岩手弁と青森弁が今までで一番難しく苦戦したそうですが、そう思えないほど美しい岩手弁でした。その迫真の演技に、現場の空気が藤田さんの存在感でいっぱいになっていました。

③私と藤田さんとの共演は正座をするシーンでしたが「カメラが回っていないときくらいは、足崩していいんだよ。しびれちゃったら大変よ。」と、私を気遣ってくださいました。人のことを思いやれる寛大な心を持っているからこそ、藤田さんの演技に優しさや可愛らしさが溢れ出ているのだと思いました。

④キャスト・スタッフはALL岩手なので、顔合わせのときの自己紹介が都道府県ではなく「〇〇市出身の～」というところから始まりました。ALL岩手ならではの自己紹介は、とても貴重な経験になりました。

⑤大竹俊子役の松本亜季さんは、矢巾の小学校で本の読み聞かせをされているそうです。ひょっとしたら、矢巾キャンパス周辺でお会いできるかもしれませんね。

⑥私の舞台挨拶の予定は、元々は盛岡市上映会のみでしたが、地元から近い北上市上映会に観客として足を運んだところ、もう一つの岩手復興ドラマ「冬のホタル」の方々と一緒に、急遽舞台挨拶に飛び入り参加しました。「日本一ちいさな本屋」組の私を、快く歓迎してくださいました。とても優しく話しやすい方々で、すぐに心を開くことができました。



北上市上映会の様子 (右から二人目が佐藤さん)

—今後機会があれば出演したいですか？

はい！このような活動が大好きなので、学業と両立できる範囲で、機会があればこれからも様々な作品に参加していきたいと思っています。

あ と が き

今回のインタビューに対し、佐藤さんは4,500字に及ぶ回答を用意してくれました。撮影の裏話も含め、すべてをご紹介できませんでしたが、佐藤さんの演技にかける思いを感じて頂けたと思います。

また、今回のインタビュアーを薬学部的那谷教授、白石准教授に務めて頂きました。お忙しい中ご協力頂き、ありがとうございました。

(大学報編集委員会事務局)



公式ホームページ
QRコード

岩手医科大学募金状況報告

【創立120周年記念事業募金】

岩手医科大学創立120周年記念事業募金に対し、特段のご理解とご支援を賜りました皆様方お一人おひとりに、厚く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

今後とも格別なるご支援・ご協力を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。

今回は第16回目の御芳名紹介です。(平成29年3月1日～平成29年4月30日)

※御芳名及び寄付金額は、広報を希望されない方は掲載しておりません。

●法人・団体等 (11件)

- <1,200,000> 圭陵会 三八支部 (青森県八戸市)
- <200,000> 圭陵会 帯広支部 (北海道河東郡)
- <100,000> 医療法人社団 仁静会 音羽歯科クリニック (静岡県静岡市)
- 歯学部同窓会 兵庫県支部 (兵庫県高砂市)
- <御芳名のみ掲載> 株式会社 岡村製作所北東北支店 (岩手県盛岡市)
- 医療法人社団 あしの内科医院 (北海道函館市)
- 丸木医科器械 株式会社 (宮城県仙台市)
- 株式会社 岩手ホテルアンドリゾート (岩手県盛岡市)
- 医療法人社団 恵仁会 (岩手県盛岡市)
- 歯学部同窓会 北海道道央支部 (北海道札幌市)
- 岩手県医療機器販売業協会 (岩手県紫波郡)

(順不同、敬称略)

●個人 (32件)

- <12,000,000> 玉田 友一 (医15) 一戸 貞文 (教職員)
- 長野 隆行 (医20) 新津 勝宏 (名誉教授) 佐々木 寛成 (歯25)
- <1,200,000> 加藤 茂 (父母) 佐藤 健一 (教職員)
- 山家 誠 (歯15) 駒野 宏人 (教職員) 外村 道夫 (元職員)
- <1,000,000> 熊谷 慶一 (教職員) 長澤 茂 (医25)
- 服部 雅之 (元職員) 野中 孝昌 (教職員) 近藤 尚知 (教職員)
- 小瀬川 玄 (医34) 二井 一成 (医15) 國崎 幸史 (歯10)
- 柴田 常博 (医45) 田澤 豊 (名誉教授) 那谷 耕司 (教職員)
- <500,000> 田澤 睦夫 (医13) 星 豊 (父母)
- 栃内 秀士 (医26) 野坂 洋一郎 (名誉教授) (順不同、敬称略)
- 金子 靖典 (医48)

- <250,000> 藤井 謙 (医27)
- <100,000> 高橋 真裕 (役員)
- <10,000> 尾島 千恵子 (元職員)
- <御芳名のみ掲載> 松政 正俊 (教職員)
- 小澤 正人 (医13)
- 小笠原 敏浩 (医35)

区 分	申込件数	寄付金額 (円)
圭 陵 会	548	402,815,089
在 学 生 ご 父 母	383	207,730,000
役 員 ・ 名 誉 教 授	60	60,810,000
教 職 員	132	20,657,000
一 般	49	24,880,000
法 人 ・ 団 体	167	578,817,000
合 計	1,339	1,295,709,089

(平成29年4月30日現在)

シリーズ 職場めぐり

No.112

病理診断学講座

当講座は1982年に設立された中央臨床検査部臨床病理部門を前身にして、2007年の講座再編で病理学講座分子診断病理学分野として独立しました。2013年からは講座名を現在の病理診断学講座と改め、現在は総勢8名で診療・教育・研究に日々邁進しております。

診療では当院の病理組織・細胞診断ならびに病理解剖を担当しています。また、各県立病院の病理診断、遠隔病理診断を行っています。岩手県内の病理診断の中核を担う立場です。

教育は2～4年生の講義・実習、5年生の臨床実習および6年生の高度臨床実習を担当しています。講義・実習を通して患者診療における病理診断の重要性を理解してもらうことが当講座の願いです。

研究活動は消化器癌を主たるテーマとし、婦人科、頭頸部および泌尿器領域における腫瘍の分子異常について先進的な研究を行っています。研究成果は定評のある国際誌にも多く採択されています。更に、移植病理も数少ない

専門施設として評価されています。

精度の高い病理診断や精力的な研究活動が医療の質を高めることにつながります。今後も医局員一丸となって邁進していきます。

(助教 杉本 亮)



看護部長室

看護部長室は看護部長、副看護部長4名、看護部長5名、主任看護師2名、看護補助者2名、事務2名で構成されています。バイタリティーあふれる看護部長と、管轄の副看護部長を中心に部署での出来事を把握し、管理的に関わり、嬉しいことがあった時には共に喜び、風通しがよく活気ある部署です。教育担当は、看護職員の研修などの支援を通して「主体的に行動できる看護師」の育成に日々奮闘しています。外来師長は、患者が安心して外来を受診し帰宅できるよう、全ての外来部門に目を配りスタッフの支えになっています。皮膚・排泄ケア認定看護師は2名おり、院内を横断的に活動しています。看護補助者と事務は、看護職員の快適な職場環境を整えるよう努めています。また、看護部長室では育児短時間勤務者が、安心して育児をしながら働くことができるように

支援しています。このような看護部長室にぜひお気軽にお立ち寄りください。

(教育担当主任看護師 植木 葉子)



岩手医科大学医療専門学校

本校は、3年制の歯科衛生学科(定員40名)、2年制の歯科技工学科(定員25名)を開設しております。教職員の構成は歯科衛生学科教員6名、歯科技工学科教員3名、事務職員4名となっております。大学内の講師および外部講師の指導も得て、平成28年度国家試験では両学科とも合格率100%の結果を出すことができました。また、本校では教員と学生の距離が近く、学業以外にも教員は親身になって相談に乗っており、これも高い合格率を維持できる一因と考えております。

現在、歯科衛生士および歯科技工士は不足しており、平成28年度は歯科衛生士と歯科技工士を合わせて県内外から1,050人を超える求人があり、就職希望者は全員就職することができました。

今後も、地域社会に貢献できる医療人の育成を目的と

し、入学生確保と全員の国家試験合格を目標に日々努めてまいりますので、どうぞ宜しくお願い致します。

(主任主事 和田 充弘)



編集委員コーナー NO.19

齋野 朝幸
presents

～ 編集委員の独断と偏見による日本酒の選び方 part2 ～

以前に、高橋慶編集委員が迷ったときの日本酒の選び方を記載しておりましたが、今回は私の独断と偏見により『鷺の尾酒造』について記載したいと思います。

鷺の尾酒造は八幡平市大更にある酒造で、1829年に創業されています。私個人の鷺の尾酒造とのお付き合いは今から10年前となります。2007年にとある居酒屋で鷺の尾酒造の飲酒会があり、出席させていただきました。その時に、酔っ払った勢いでお酒に関する蘊蓄と鷺の尾の酒について杜氏さんに切々と語ったようです。ここで杜氏さんと馬が合い、是非酒造に見学に来て下さいと話をいただいたのがきっかけです。個人的には鷺の尾の全部の銘柄が良いと思っていますが(笑)、一番はやはり金印ですね。でも今一番お勧めなのは結の香(純米大吟醸酒)でしょうか。これは岩手県で作られた酒造好適米で、父は『山田錦』、母は『華想い』です。この酒米を用いて結の香の名称で同様のものが県内の各酒造でも作られています。各酒造の特徴がでていて利き酒も楽しいと思います。少々お高いですがお勧めの一本です。

鷺の尾酒造は、ここ10年の間に社長が息子さんに変更されたり、若い杜氏さんが増えたりと活気にあふれています。一度蔵見学に行かれてみてはいかがでしょうか。日本酒の魅力を再認識したいと思います。酒造の詳細は、<http://www.washinoo.co.jp/> をご覧になっていただければわかります。この酒造は、皇太子が大好きな酒造としても密かに有名です。鷺の尾酒造のお酒を飲んだことのない人は、一度トライしてみてくださいはいかがでしょうか。





解剖学講座細胞生物学分野 横山 拓矢 助教が 第16回インテリジェント・コスモス奨励賞を受賞しました

解剖学講座 細胞生物学分野 横山 拓矢 助教は、平成29年5月15日に公益財団法人 インテリジェント・コスモス学術振興財団が実施する第16回インテリジェント・コスモス奨励賞授与式に出席しました。この賞は、東北地域の活性化および発展に寄与することが期待される、特に優れた自然科学研究に取り組む若手研究者に対して授与されるものです。

研究課題は「頸動脈小体のグルタミン酸による低酸素応答調節機構の解明」で、血中の酸素分圧の変動をモニターしている頸動脈小体に着目したものです。生体では高山病、慢性閉塞性肺疾患や睡眠時無呼吸症候群などの疾病によって低酸素血症や呼吸異常が生じます。グルタミン酸が頸動脈小体の動きを強め、低酸素による呼吸調節に関与していることが明らかになれば、これら呼吸器系疾患の治療に対して新たな知見を与える可能性があります。

受賞にあたりご指導、ご助力いただきました皆様方に深謝申し上げます。
(文責：横山 拓矢)



岩手日報 H29.5.16付

日本ペインクリニック学会第50回大会において 麻酔学講座 三浦 皓子 専門研修医が優秀論文賞、山田 直人 助教が会長賞を受賞しました

麻酔学講座の三浦 皓子 専門研修医（写真左から3人目）と山田 直人 助教（写真右から3人目）は、平成28年7月に横浜で開催された日本ペインクリニック学会第50回大会において、以下の賞を受賞しました。

【優秀論文賞（臨床部門）】

「末梢性顔面神経麻痺の造影MRI所見と予後予測に関する検討」
三浦皓子、鈴木健二、鈴木翼、大畑光彦（麻酔学講座）
中里龍彦（放射線医学講座）
（日本ペインクリニック学会誌Vol.22(2015), 33-9.）

【会長賞（臨床部門）】

「慢性痛患者における居眠り運転のリスク調査」（口演発表）
山田直人、大畑光彦、鈴木翼、青木優子、宮田美智子、星有己枝、水間謙三、鈴木健二（麻酔学講座）
発表するにあたり、御指導・御協力いただいた方々に深謝申し上げます。



(文責：三浦 皓子、山田 直人)

《岩手医科大学報編集委員》

小川 彰	山尾 寿子
影山 雄太	菊池 初子
松政 正俊	米澤 裕司
齋野 朝幸	熊谷 佑子
藤本 康之	安保 淳一
白石 博久	佐々木忠司
成田 欣弥	畠山 正充
遊田由希子	菅原 侑子
佐藤 仁	武藤千恵子
小坂 未来	高橋 慶
藤澤 美穂	

編集後記

本号は巻頭言の看護学部長の挨拶から始まり、8名の新入職員の声、新任教授の紹介と特別企画など、読み応えのある構成になっております。特別企画は、薬学部の佐藤聖梨奈さんが復興ドラマ「日本一ちいさな本屋」に出演し、その体験を取材形式で掲載しております。紙面の都合上すべて紹介はできませんので、QRコード(P15)より動画を観ることをお勧めします。

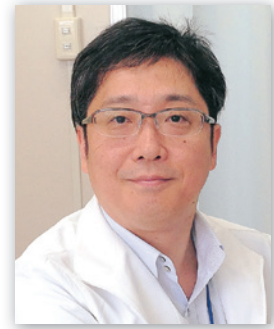
最後に、梅雨寒の時節柄ご健康には一段とご留意のほどお祈り申し上げます。

(編集委員 佐々木 忠司)

岩手医科大学報 第489号

発行年月日 平成29年6月30日
発行 学校法人岩手医科大学
編集委員長 小川 彰
編集 岩手医科大学報編集委員会
事務局 企画部 企画調整課
盛岡市内丸19-1
TEL. 019-651-5111 (内線7023)
FAX. 019-624-1231
E-mail: kikaku@j.iwate-med.ac.jp
印刷 河北印刷株式会社
盛岡市本町通2-8-7
TEL. 019-623-4256
E-mail: office@kahoku-ipm.jp

スポット医学講座



臨床腫瘍学講座 教授 伊藤 薫樹

がんの免疫療法について

がん治療の基本の3本柱は、手術療法・放射線療法・化学療法です。最近、がんの免疫療法が話題になっていますが、免疫チェックポイント阻害薬をご存知でしょうか？がんの免疫療法は非常に期待され、これまで多くの研究が行われてきましたが、科学的にその有効性を証明することが困難でした。最近、「免疫チェックポイント阻害薬」が開発され、がん治療の新たな希望の光として注目されています。もともと体内のリンパ球はがん細胞を認識し、攻撃しようとするが、がん細胞はリンパ球の攻撃から逃れるために、リンパ球の活性化を抑制する分子（PDリガンド）をがん細胞上に表出します。このPDリガンドがリンパ球に発現している受容体に結合することによりリンパ球の活性化を抑えることが明らかになりました（図1）。このPDリガンドとPD受容体の結合を阻害することでリンパ球が元気を取り戻し、がん細胞を攻撃できるようになる薬が、免疫チェックポイント阻害薬の一つである抗PD-1抗体薬（オプジーボ®・キイトルーダ®）です（図2）。現在、悪性黒色腫、肺癌、腎癌、ホジキンリンパ腫、

頭頸部癌に保険適用となっています。今後、さらに適応疾患が増加すると思われます。

このように長年の夢であった免疫療法が登場しましたが、様々な課題も指摘されています。免疫療法の有効性については大きな期待が持たれましたが、有効性が長期に維持される割合は20～30%程度です。非常に高価な薬剤であることと免疫の活性化によるこの薬剤に特徴的な副作用（しばしば難治性）が現れることがあるので、真に有効な患者さんを見極めることが必要であり、現在、研究が進んでいます。副作用については腫瘍センターを中心に各診療科が連携して早期発見や早期治療に向けた取り組みを行っています。当然、がん患者さんは免疫療法に興味を持たれていて、適応疾患ではない患者さんもよく相談に来られます。また、インターネット上でも情報が氾濫し、適応外使用を謳ったクリニックもたくさんあります。私たち医療者は正しい情報を適切に伝えることが求められます。がんの免疫療法を今後も皆様と共に育てていくためにも、正しい知識を共有し、適切な情報提供を行っていただきたいと思います。

図1 がん細胞はリンパ球を抑制する

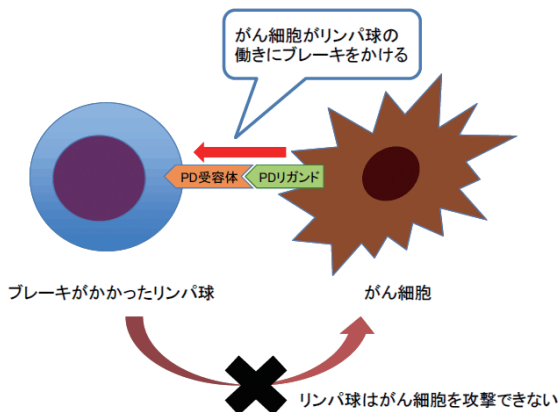


図2 免疫チェックポイント阻害薬ががん細胞による免疫抑制を解除する

